

1 市長の市政運営と国政に関する考え方について

(1) 市長として2期目の市政運営の総括と課題について伺う。

(2) 新年度予算編成の基本方針と重点施策、組織改革のあり方について

新年度予算編成の基本方針と重点施策について伺う。

組織改革を行い支所の職員の削減とグループ制の導入を行っている。市民から係がわかりにくい、不便になったなどの声も聞かれる。組織改革の評価と課題を伺う。

新年度の地方交付税の見込みと民間委託や指定管理者制度などの導入で削減した経費を標準の水準として、地方交付税の算定に結びつける「トップランナー方式」の影響について伺う。

(3) 6月に続き11月にも市職員の不祥事が起きている。事件後、渡部修市長は「市民の信頼を損ねたことは大変遺憾。事実関係を確認し、厳正に対処する」とのコメントをマスコミに発表している。こうした事態について議会には報告がされていない。市のトップとしての市長の見解と不祥事根絶に今後どのように取り組むのか伺う。

(4) 国の施策に関する市長の見解について

消費税の8%増税は市民の暮らしに大きな影響を与えている。市も増税による負担が増えている。安倍内閣が先送りしている10%増税はさらに大きな影響を与えると考える。増税は延期でなく中止すべきだと考える。見解を伺う。

福島第一原発事故は、事故から6年近くが経過しても未だに8万6千人もの人々が避難生活を強いられている。高速増殖炉「もんじゅ」が廃炉に追い込まれている事態は「核燃料サイクル」の破たん、使用済み核燃料の処理方針の破たんを意味している。浜岡原子力発電所の永久停止・廃炉について国まかせではなく市長みずから意思表明をすべきだと考えるが見解を伺う。

政府は11月15日、南スーダンの国連平和維持活動（PKO）に関し、今年3月に施行された安保法制（戦争法）に基づく自衛隊初の任務として「駆け付け警護」を盛り込んだ実施計画の変更を閣議決定した。従事する自衛隊は任務遂行に必要な武器使用が認められるため、南スーダンがその最初の例となる危険がある。市内にも自衛隊員の家族がいる。安保法制（戦争法）に対する見解を伺う。

日本国憲法は、憲法9条という世界で最も進んだ恒久平和主義の条項を持ち「個人の尊重」「個人の尊厳」「住民自治」などにわたるきわめて先駆的な条項が盛り込まれている。地方自治体の長として住民の権利や自治を守る立場から憲法を擁護することが必要である。見解を伺う。

2 市政の諸課題について

(1) 介護保険制度の充実を

国は、要支援1・2を介護保険給付から外し、介護予防地域支援事業に置きかえた。2017年4月から実施されるが、準備状況とサービスを必要とする要支援者が利用できるよう市の責任を果たすべきと考える。見解を伺う。

日本共産党磐田市議団は、市内の事業所を訪問し懇談を行っている。改定により事業所の収益が減少し経営に大きな影響を与えていることや介護の質を落とさない努力をしていることなどがわかった。介護報酬引き下げによる影響について市内事業所の実態調査を行い介護施策の充実にいかすことが必要であると考え、見解を伺う。

(2) 子育て、教育の充実を

こども医療費助成制度は、入院・通院において中学卒業まで助成されている。受診しやすいように就学前の乳幼児の一部負担廃止を検討すべきと考える。見解を伺う。

4月以降の保育園待機児童の現状と対策について伺う。

幼保再編計画の中で正規雇用率の向上をうたっている。しかし、非正規雇用が増えている。正規職員の拡充で幼児教育、保育の充実を図るべきと考える。また、非正規職員の処遇改善も図るべきだと考えるが見解を伺う。

豊田中学校区学府一体校整備構想は、大規模校になることや通学区の拡大、地域のコミュニティが変わるなどの問題や課題があると考ええる。一体校整備構想の検討状況と保護者や地域住民の意見と課題、事業費について伺う。

市独自の給付型奨学金制度の創設について見解を伺う。また、学生が市内の企業に就職した場合の奨学金返済への助成制度創設について見解を伺う。

(3) 安心・安全なまちづくりを

東日本大震災、熊本地震を教訓にして引き続き地震・津波対策の強化を図るべきと考える。市の取り組みの現状と課題について伺う。また、防潮堤整備事業の期間短縮について見解を伺う。

市内には耐震化が必要な木造住宅が約1万棟ある。木造住宅耐震化事業の推進を図るべきと考える。推進策を伺う。また、耐震と住宅リフォームをあわせて行う補助制度について見解を伺う。

防災対策として室内改修等の支援について検討していると聞く。具体的内容と課題について伺う。

3 市民生活、まちづくりについて

- (1) 磐田市文化会館建設基本計画の策定状況と基本計画には利用者や市民の意見を反映すべきと考える。見解を伺う。また、高齢者や中・高校生の会館へのアクセスについて見解を伺う。

- (2) 磐田市の図書館は5館あり、図書館数は浜松や静岡に続き県内では3番目である。図書館は、旧市町村ごとにあり乳幼児から高齢者まで図書や資料を入手して芸術や文学を鑑賞し、教養や生活を豊かにしている。

磐田市の図書館についての評価と課題を伺う。

図書館機能と子育て相談機能をあわせ持つ(仮称)子ども図書館構想は、今まで利用していた一般書の利用・貸出について明確になっていない。今まで通りの一般書の利用・貸出も行うべきと考える。見解を伺う。

- (3) 市民からデマンド型乗合タクシー「お助け号」の利便性の改善を求める声に対して運行内容の見直し方針が出されている。運行内容の見直し方針と今後の周知方法、課題について伺う。

- (4) 磐田市生涯大学いきいき学園では、60歳以上の方々が陶芸、絵手紙、書道、水墨画、レクリエーション体操、太極拳、短歌などのクラブで活動をしている。今年で第38回となり本年度の学園生は60歳から91歳までの273人とのことである。今後も継続を望む声が多いと聞いているが充実策と課題について伺う。

- (5) 商店街空き店舗の現状と今後の空き店舗対策について伺う。

- (6) 鎌田第一土地区画整理事業と新貝土地区画整理事業は、新駅設置に向けた都市基盤整備を目的として行われている。JR新駅設置と新貝、鎌田地区の土地区画整理事業の進捗状況と今後の課題、新駅周辺のまちづくりのあり方について伺う。

- (7) 「遠江国分寺跡整備基本計画(案)」が示された。基本計画(案)の主な内容と今後の課題について伺う。また、遠江国分寺跡整備をいかしたまちづくりが必要であると考え。見解を伺う。